

## 【水道事業】 人口、水需要、日平均給水量

### 現況と課題

- ① 給水人口の当初の予測では「長岡京市人口ビジョン」に基づきR2年度をピークとして徐々に減少していくと見込んでいた。しかし、R4年度決算は81,948人で、R4年度の予測に対し736人増加している。
- ② 水需要の状況はコロナウイルス感染症の影響で、家庭用では在宅勤務増加等の影響で微増しているが、反対に工場用及び営業・その他用は減少しており、有収水量の合計では、令和2年度は一時的に微増したが、全体としては予測値に対し微減で推移した。
- ③ 日平均給水量は、有収水量を計画策定時の平均有収率(93.0%)で割った数値を、更に年間日数で割った数値としている。

決算値と 現水道ビジョン予測との比較	R4年度 決算値 ①	現水道ビジョン 4年度予測値 ②	差 引 ① - ②、比率	
給 水 人 口 (人)	81,948	81,212	736	0.9%
水需要 家庭用 (千m3)	6,680	6,478	202	3.1%
工場用(大口除) (千m3)	236	260	△ 24	-9.2%
大口5社 (千m3)	584	662	△ 78	-11.8%
営業・その他 (千m3)	1,134	1,273	△ 139	-10.9%
合 計 (千m3)	8,634	8,673	△ 39	-0.4%
日平均給水量 (m3)	24,571	25,551	△ 980	-3.8%

### 人口、水需要、日平均給水量の予測値の考え方

- ① 給水人口、水需要等の考え方は現行の計画を基本として考え、給水人口についてはR6年度当初予算値から令和3年度以降の伸び率等を参考に、今後も増加傾向が続くと見込んで予測した。
- ② 水需要について、家庭用はR6年度当初予算の水量に、人口の増加率(R7/R6)及び現行ビジョンの予定水量減少率(0.3%分)をマイナスして求めた水量をR7年度水量とし、次年度以降も同様の考え方で水量を求めている。
- ③ 大口5社については、A社はR6年度当初予算の水量が翌年度以降も同様に続くの見込み、B社はR6年度の水量からR7年度は1千m<sup>3</sup>減少と見込み翌年度以降は同量、C社とD社はR6年度の水量からR7年度は2千m<sup>3</sup>減少と見込み翌年度以降は同量、E社はR6年度の水量が翌年度以降も同様に続くの見込みだ。
- ④ 工場用(大口5社除く)、営業・その他用はR6年度当初予算の水量が、R7年度以降も同様に続くの見込みだ。
- ⑤ 日平均給水量は、年間有収水量を、6年度予算試算時の有収率(一般系96.25%、大口5社98.30%)及び年間日数でそれぞれ割って求めている。
- ⑥ 受水量は、一般系のブレンド率50%を基本に受水量の約103%分を見込んだ。